



第40期 中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと
高速自動充填機の両方を手がける
唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、
コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に 대응して

液体・粘体包装のパイオニアとして
業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独自のシステムを
構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、第40期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、製造業を中心とする企業部門の収益改善が進み、設備投資のすそ野も拡大し景気も回復してきておりましたが、当中間期の後半からは、原油価格の急騰や海外景気の減速等により成長の速度を緩めております。

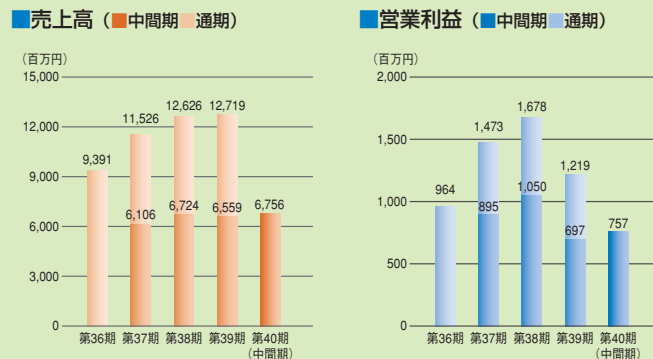
当軟包装業界におきましては、原油価格の高騰に連動してナフサ(粗製ガソリン)価格、石油化学製品も値上りしたことにより、業界各社は樹脂、フィルム等原材料の相次ぐ値上げを受入れております。

このような状況の下、当社は、食品業界に加え、化粧品・健康食品業界への積極的な営業と製品売価の値上げを推進しました。また、本社新工場第2期生産設備の増設によりフィルムの外注部分の内製化をさらに進め、徹底したコストダウンと生産性の向上により原材料高を吸収いたしました。

その結果、売上高は67億56百万円

Financial Highlights 業績ハイライト

(注) 第36期は中間財務諸表を作成しておりませんので中間期については記載しておりません。



表紙の絵

洋画家八十山和代(やそやまかずよ)氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。

(前年同期比3.0%増)となり、経常利益は7億59百万円(同7.9%増)、中間純利益は4億55百万円(同12.8%増)と増収増益となりました。

今後の経営戦略

今後の経済見通しは、個人消費は緩やかな回復が続くと思われていますが、当社が主力とする食品業界は依然厳しい環境にあります。

このような状況のなか、包装フィルム部門におきましては、営業力の増強、新販路開拓による受注増に対応するため、第3期生産設備の増設として、ラミネート機、多色印刷機を導入いたします。低コスト・短納期一貫製造ラインを構築し、生産性の向上並びに徹底したコストダウンを図り、液体包装市場においてさらにシェアアップしてまいります。包装機械部門におきましては、引き続き「NT-DANGAN」の拡販、新販路である化粧品・健康食品業界への積極的な販売活動を進め、ユーザー

への真の生産性向上に貢献することを目指してまいります。また、将来の事業基盤強化に向けた研究開発の充実、新たな開発分野の事業化を迅速に行ってまいります。

通期の見通し

フィルムにつきましては、原材料価格が高値で推移すると見込まれますので、当社は製品価格に転嫁するとともに、短納期・少ロット生産技術の強み、原材料調達力の優位性、徹底的なコストダウンにより各ユーザーのさまざまな要求に応えて、より信頼性の高いメーカーを目指しております。

また、化粧品・健康食品業界に対しては、これまでの新規開拓・深耕が実績として実りつつありさらに売上規模の拡大を図ります。

高速自動充填機「NT-DANGAN」につきましては、従来からのユーザーである食品業界への商談・契約の推進に加え、化粧品・健康食品業界への新規

設置も積極的に展開しております。

また、株式会社日立製作所が開発した世界最小クラスの非接触ICチップ「ミューチップ」と当社のラミネーション複合化技術、高精度高速ヒートシール技術を活用した非接触ICタグにつきましても積極的に対応してまいります。

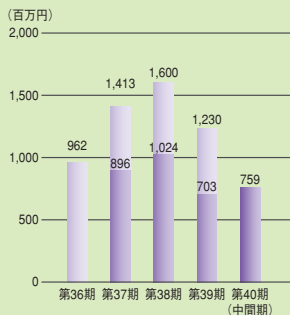
通期の業績見通しにつきましては、売上高136億円(前期比6.9%増)、経常利益14億1百万円(同13.9%増)、当期純利益7億61百万円(同7.8%増)を見込んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

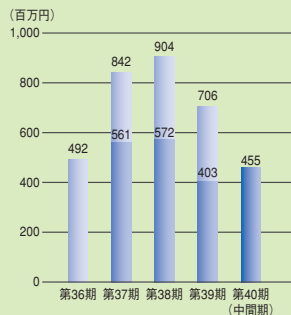
平成16年12月

代表取締役社長 **木お登**

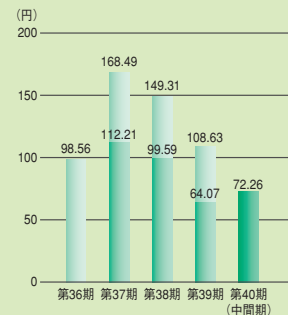
■経常利益 (■中間期 〻通期)



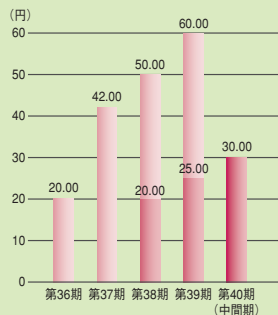
■中間(当期)純利益 (■中間期 〻通期)



■1株当たり中間(当期)純利益 (■中間期 〻通期)



■1株当たり配当金 (■中間期 〻通期)



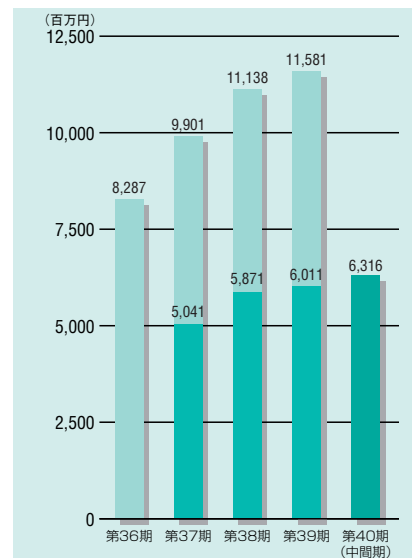
包装フィルム部門

■ 事業内容

主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシング等を入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

当社が主力とする食品業界では、4月からの消費税総額表示による買い控え傾向や消費者の低価格志向等で依然として厳しい状況が続き、加えて今夏の猛暑も飲料関係は活発に動いたものの即席麺、加工食品等の出荷ペースは鈍化しました。このような状況に対応し、当社は、冷やし中華、そば・うどんつゆ、ドレッシング類の夏物商品の取り込み・追加受注獲得に注力いたしました。また、化粧品・健康食品業界への新規開拓・更なる深耕等積極的な営業を展開いたしました。その結果、売上高は63億16百万円（前年同期比5.1%増）となりました。

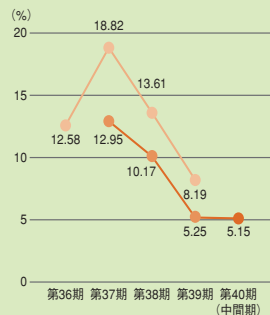
■ 包装フィルム部門売上高推移



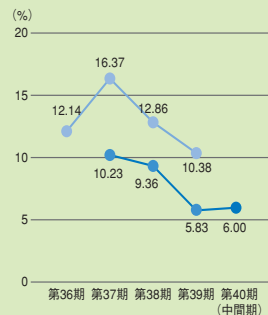
(注) 第36期は中間財務諸表を作成しておりませんので中間期については記載しておりません。

Financial Highlights 業績ハイライト (注) 第36期は中間財務諸表を作成しておりませんので中間期については記載しておりません。

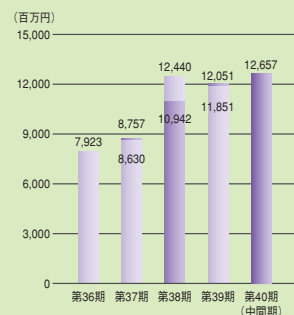
■ 株主資本利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 総資産経常利益率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 総資産 (■ 中間期 ■ 通期)



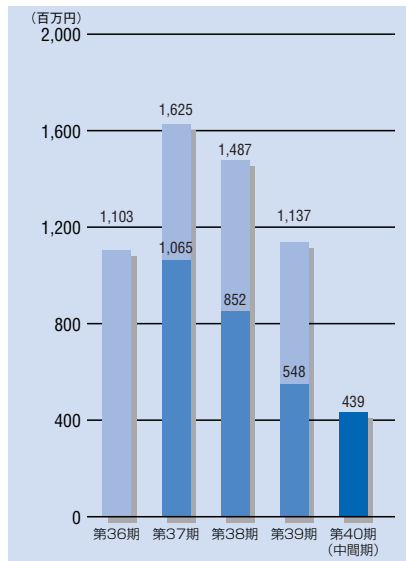
包装機械部門

■ 事業内容

当社と日本精機(株)が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカーなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれ等の少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

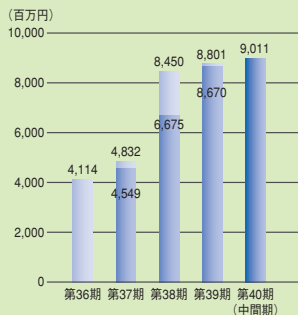
高速自動充填機「NT-DANGAN」につきましては、味噌メーカー向けの新規設置、リブレースによる設置等一部前向きな変化は現れてきておりますが、食品業界における全体的な設備投資意欲は弱く、当中間期は計画対比未達成に終わりました。その結果、売上高は4億39百万円(前年同期比19.9%減)となりました。

■ 包装機械部門売上高推移

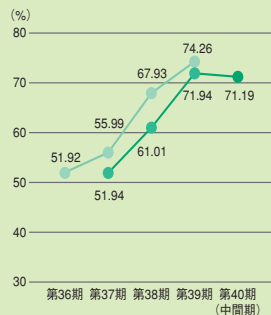


(注) 第36期は中間財務諸表を作成しておりませんので中間期については記載していません。

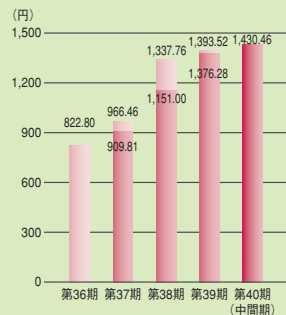
■ 株主資本 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 株主資本比率 (■ 中間期 ■ 通期)



■ 1株当たり株主資本 (■ 中間期 ■ 通期)



環境対応 + 先端技術

当社は、時代のニーズを的確にとらえた新製品や新ビジネスへの可能性を拓くソリューションを積極的に提案し続けています。

リサイクル紙を用いた複合容器 環境新時代の期待商品です。

PIC

新型液体用複合容器
パウチ イン カートン



PICは、独自の構造から開封後も高い密封性を保ち、品質劣化を防止。優れた機能性と省資源への視点を併せ持つ“新時代のパッケージ”です。

PIC (Pouch In Carton) は、当社が東京農業大学と共同開発した、ラミネートフィルムとリサイクル紙を用いた複合容器です。独自の構造により密閉状態を保ち、内容物の品質劣化を防止することから、ワインや醤油等の液体容器として高い需要が見込まれています。当社では、来春をメドに販売を予定。ペットボトルや紙パック等に代わる次世代包装容器として大きな期待が持てることから、将来的には年間100億円の売上を目指しています。

特徴1 ● 開封後の保存期間延長

PICは、ラミネートフィルムの中袋とリサイクル紙の外箱で構成。フィルム袋の注ぎ口は外箱を傾けて注ぎ出す時にだけ開く構造になっているため、密閉状態を長時間維持。外気が混入しないため、酸化による品質劣化もしっかり防止します。

特徴2 ● 環境にやさしい容器

従来のプラスチック容器に比べ、樹脂量を大幅に削減。(ペットボトルの1/8相当)。使用後は中袋と外箱を簡単に分離することができる上、外箱は紙資源としてリサイクル可能な省資源設計にしております。

特徴3 ● 優れた機能性

外箱直方体の形状により保管性にも優れたPICは、外箱への印刷により、デザインの付加や広告媒体としての活用も期待できます。さらに、ICタグを搭載することにより、トレーサビリティやセキュリティも確保します。

トレーサビリティも確保して 熱い注目を浴びています。

ICタグ 世界最小クラスのICチップ 「 μ チップ」搭載

当社独自のラミネーション技術を駆使して、*「ミューチップ」と外部アンテナで構成されるインレットを非接触ICタグ化した、4種類の「ミューチップタグ」を共同開発しました。商品や箱にそのまま装着し、トレーサビリティ（製造履歴）への利用や商品判別等、食品、製造、アパレル、医薬品等の多様な業種に幅広いビジネスソリューションを提供します。

*ミューチップ：株式会社日立製作所が開発した世界最小クラスのICチップ



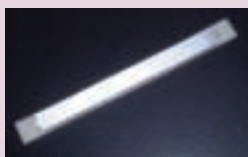
ICタグとは

簡単に言えば、アンテナを取り付けた極小のICチップを組み込んだ電子荷札のこと。物流管理や入退場管理の高度化を実現します。情報社会における新ビジネスの活性剤として期待され、2010年には31兆円市場に成長すると試算されています。



●ラミネートタグ

ラミネート加工により耐水性を実現した「薄型ラミネートタグ」と、さらに耐強度を確保した「高強度ラミネートタグ」の2種類があります。



●金属専用薄型タグ

従来は利用できなかった金属製の容器を使った物品管理や車両管理などにも利用可能です。



●シールタグ

インレットの片面をシール状に加工。現在使用中の社員証や学生証等のIDカード類も、手軽に非接触のICタグとして使用可能に。

次世代型商品に人気集中!! 『東京パック2004(東京国際包装展)』

当社は、10月5日から9日まで東京国際展示場で開催された「東京パック2004」に、高速液体自動充填機「NT-DANGAN」と包装フィルム、そしてバイオの3つの技術を結集したインテリジェンス商品を出展。PICや低温管理用インジケーター等、包装システムの新時代を予感させる展示品に来場者からの熱い視線が注がれていました。



貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第40期中間期 平成16年9月30日現在	第39期中間期 平成15年9月30日現在	第39期 平成16年3月31日現在
●資産の部			
流動資産	7,964	7,257	7,260
現金及び預金	2,411	1,684	2,100
受取手形	1,515	1,634	1,266
売掛金	2,477	2,433	2,477
たな卸資産	1,381	1,338	1,279
その他	182	170	140
貸倒引当金	△ 3	△ 3	△ 3
固定資産	4,692	4,793	4,591
有形固定資産	4,137	4,189	4,029
建物	2,124	2,215	2,123
機械及び装置	804	733	689
土地	839	839	839
その他	369	399	376
無形固定資産	122	126	119
投資その他の資産	432	478	441
投資有価証券	253	288	253
その他	192	202	202
貸倒引当金	△ 13	△ 12	△ 14
資産合計	12,657	12,051	11,851

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

現金及び預金

新工場建設費などの前期末払分がまだ完済していないため、現金及び預金が増加しております。

科目	第40期中間期 平成16年9月30日現在	第39期中間期 平成15年9月30日現在	第39期 平成16年3月31日現在
●負債の部			
流動負債	3,499	3,228	2,894
買掛金	2,343	2,296	2,067
未払金	618	386	340
未払法人税等	331	313	217
賞与引当金	164	154	151
その他	43	77	118
固定負債	145	151	155
退職給付引当金	86	94	97
役員退職慰労引当金	59	56	58
負債合計	3,645	3,380	3,049
●資本の部			
資本金	2,408	2,408	2,408
資本剰余金	2,896	2,896	2,896
利益剰余金	3,699	3,341	3,487
その他有価証券評価差額金	7	24	9
資本合計	9,011	8,670	8,801
負債及び資本合計	12,657	12,051	11,851

ここがポイント!

未払金

本年5月に稼動した、第2期生産設備の支払いがまだ行われていないため、未払金は6億18百万円となっております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	第40期中間期	第39期中間期	第39期
	平成16年9月30日現在	平成15年9月30日現在	平成16年3月31日現在
売上高	6,756	6,559	12,719
売上原価	5,025	4,936	9,665
売上総利益	1,731	1,622	3,054
販売費及び一般管理費	973	925	1,834
営業利益	757	697	1,219
営業外収益	8	14	25
営業外費用	7	8	14
経常利益	759	703	1,230
特別利益	—	3	41
特別損失	14	1	11
税引前中間(当期)純利益	744	705	1,260
法人税、住民税及び事業税	301	315	558
法人税等調整額	△12	△13	△4
中間(当期)純利益	455	403	706
前期繰越利益	141	183	183
中間配当額	—	—	157
中間(当期)未処分利益	597	586	732

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

売上高

包装機械の販売台数は前年同期と比べ減少しましたが、包装フィルムにおきましては、化粧品・健康食品業界といった新規分野への営業展開を積極的に行った結果、売上高は前年同期比3.0%増となりました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第40期中間期	第39期中間期	第39期
	平成16年9月30日現在	平成15年9月30日現在	平成16年3月31日現在
営業活動によるキャッシュ・フロー	607	130	771
投資活動によるキャッシュ・フロー	△73	△565	△523
財務活動によるキャッシュ・フロー	△219	△188	△345
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	313	△623	△97
現金及び現金同等物の期首残高	1,290	1,388	1,388
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,604	764	1,290

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間会計期間末における営業活動の結果得られた資金は6億7百万円となりました。これは主に、税引前中間純利益7億44百万円、減価償却費2億25百万円等による増加、売上債権額2億48百万円、仕入債務の増加額2億75百万円、法人税等の支払額1億99百万円による減少の結果であります。

ここがポイント!

投資活動によるキャッシュ・フロー

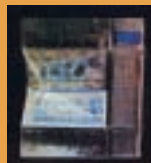
投資活動の結果使用した資金は73百万円となりました。これは主に、本社新工場生産設備等の有形固定資産の取得による支出70百万円によるものであります。

ここがポイント!

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は2億19百万円となりました。内容につきましては、配当金の支払額2億19百万円の支出によるものであります。

TOPICS 1



時間経過と温度変化に応じて、小袋内の酵母がガスを発生。目視確認による安全管理を実現しました。(左写真は加熱殺菌が必要な段階)

低温管理用インジケータを開発

ガスの発生量で、冷蔵食品の安全を目視確認

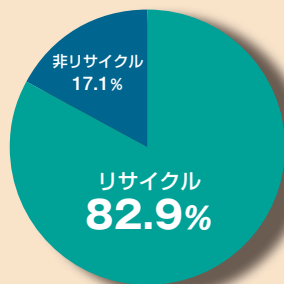
これまで、冷蔵食品の安全性を確保するには、製造、流通、消費の各現場における低温管理が有効な手段とされてきましたが、温度設定を誤ると食中毒等の発生原因となっていました。

そこで当社は、農林水産省「食品総合プロジェクト」において、食品総合研究所との共同研究により、「低温管理用インジケータ」を開発しました。

これは、小袋内の酵母が時間経過と温度変化に応じて産生するガスの発生量を確認することにより、家庭レベルでも安心して冷蔵食品の安全管理ができるようになります。

食品の安全性への意識が高まるなかで、幅広い層からの需要が見込まれています。

TOPICS 2



当社のリサイクル率(平成16年10月現在)

リサイクル率82.9%達成

当社では、全社を挙げて廃棄物発生数量の削減等の省資源・環境保全活動を推進しています。特にリサイクル率に関しては平成16年10月現在82.9%を達成。フィルム製造工程の廃プラスチックに関しては100%リサイクル処理を実現しています。また、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001認証取得に向けての準備が着々と進んでいます。

■ 会社概要 (平成16年9月30日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズ等の開発製造販売
高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

従 業 員 数 284名(男子245名 女子39名)ほか
臨時従業員69名(男子29名 女子40名)

主 な 事 業 所 本社・工場(埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 東北、名古屋、大阪、福岡

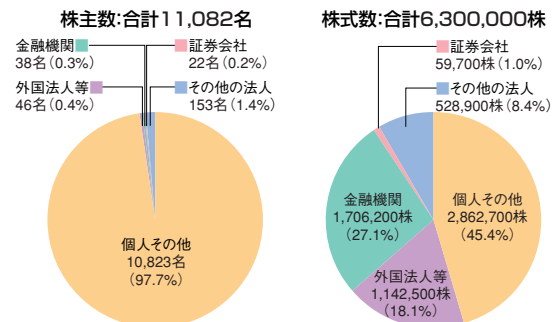
■ 役員一覧 (平成16年9月30日現在)

代表取締役社長		木 村 登
専務取締役	(管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役	(R&D本部長)	二 瀬 克 規
取締役	(営業本部長)	村 山 淳 司
取締役	(営業本部副本部長)	古 村 博
取締役	(生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役		里 村 睦 男
監査役		山 本 実
監査役		長 谷 川 忠

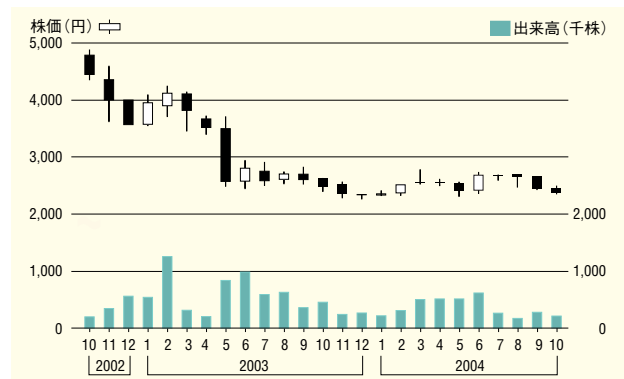
■ 株式状況 (平成16年9月30日現在)

- ・ 会社が発行する株式の総数 20,000,000株
- ・ 発行済株式総数 6,300,000株
- ・ 株 主 数 11,082名

■ 所有者別株式分布 (平成16年9月30日現在)



■ 株価 / 出来高の推移 (平成16年10月31日現在)



決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領 株主確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付および 電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (其他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公 告 の 方 法	日本経済新聞に掲載いたします。 ただし、商法特例法第16条第3項に定める 貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.lamick.co.jp/kessan/index.html において提供いたします。



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられてきました。言い換えれば、我が国包装文化の原点であります。

竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れた当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱且つ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 **大成ラミック株式会社** (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

株主優待のお知らせ

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回は11月下旬に発送いたしました。



今回送付した食品詰合せ写真

貸借銘柄の選定に関するお知らせ

当社は、東京証券取引所市場第一部の貸借銘柄に選定されましたので、お知らせいたします。

これもひとえに、皆さまのご支援の賜物と心から御礼申し上げます。今後とも一層のご支援ご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。